

# 研究会 備 忘 録

5 2

|  |   |           |
|--|---|-----------|
| 研究グループ                                   | 効率性研究グループ   | しくみ研究グループ |
| 日 時                                      | 平成 20 年 6 月 24 日 (火) 16:00 ~ 17:30  |           |
| 会 場                                      | 本館 3 階 庁議室  |           |
| 出 席 者                                    | 岩下、小河、團野、前田、山下、大道、佐藤 (オブザーバー：毛利係長)<br>アドバイザー：福岡大学商学部教授 田村 馨先生   |           |
| 内 容                                      |   |           |
| テ ー マ                                    | コ メ ン ト   |           |
| グループの研究内容<br>についてアドバイザー<br>との協議<br>(2回目) | <p>プレゼンについて<br/>                 (プレゼン用パンフレットについて説明)</p> <p>1 ページ目 (道州制の必要性) について<br/>                 田村先生) 道州制の導入については、効率性グループと一緒になのか？<br/>                 メンバー) まだすり合わせまではできていない。<br/>                 田村先生) 県がなくなるとどうなるのか？<br/>                 道州制の導入について一般的な説明としての表示となっているが、それ<br/>                 に加えて、自治体から見た道州制を説明すべきでは。<br/>                 毛利係長) 一般的には、県が道州に変わるイメージで、県の業務が基礎自<br/>                 治体に、国の業務が道州に下りてくる。<br/>                 田村先生) 住民から見ると 3 層の構図は変わらない。<br/>                 どういう形が大野城市にとっていいのか？<br/>                 現在足りないものは何か (基礎自治体には権限・財源がないため色々な<br/>                 ことを決められない)<br/>                 何を指すのか、何を強化するのか。<br/>                 (大野城市役所、住民として) どういうまちにしたいのか。<br/>                 メンバー) 基礎自治体の権限、財源拡大。<br/>                 住民の意思で判断していく。</p> <p>2 ~ 3 ページ目 (具体的提言) について<br/>                 田村先生) 手書きのイラストは非常にいいと思う。</p> <p>高齢者の政策提言については、すでに行政面で権限が基礎自治体にかなり<br/>                 下りてきているのではないかと。他の自治体の状況においては、どちら<br/>                 かというと行政の方が引けている。<br/>                 他の具体的な例はないのか。例えば市民が参加すること (市民のアイデ<br/>                 ア)・議会が変わること・行政が変わること等によってできることなど。</p> <p>納税については、分かりやすいと思う。</p> |           |

全体的に、表題をより具体的な説明にしたほうが良いのでは。道州制の導入によって最も変わる事、変えて変わった結果を説明したほうがより良いのでは。

4 ページ目 (まとめ) について

田村先生) 文中に”行政で対応できるサービスには限界があります“ という表現があるが、行政の立場としてもっとストレートな表現にすべきでは。

目的は、住民に対して道州制への参画を呼びかける、ということなのか? (メンバー) 一つの目的ではある。住民に道州制について関心を持ってもらい、声を上げてもらいことが目的である。

毛利係長) 市民向けと国等にもメッセージを行っていきたい。

田村先生) 住民へ何をメッセージとして伝えるのか。

パンチの効いたメッセージが必要

- ・ 道州制への関心
- ・ 道州制への参画のプロモート
- ・ 市民に当事者意識、主体性を自覚
- ・ **こういう自治体になりたい【望ましい基礎自治体】**  
**(オールパッケージ、フルセット)**

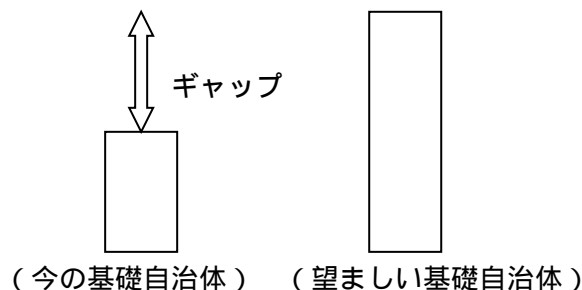
これを 1 枚目で言うべきでは (追い風として道州制がある)  
望ましい自治体とは

権限・財源

市民力 (参加、自己完結・地域完結、アクティブ市民、お互いさま・おかげさま、隣組力、課題解決)

行政力 (自治力、(個と全体の) バランス力、現場主義、責任感、企画力、政策立案能力、自治体運営力、マネジメント力)

議会力 (市民・地域の声を届ける、立法力・議員立法: 課題を見つけ解決策を提案) 議会と行政の相乗効果



最後の 4 ページで、今の基礎自治体と望ましい基礎自治体のギャップについて説明をすべきでは。

より具体的に

(行政はこう変わります、市民はこう変わります、議会はこう変わります)

|                    |  |
|--------------------|--|
|                    | <p>4 ページ目後段 ( 図 ) について</p> <p>田村先生) 地域と市民との間の線引きはどういう意味か?<br/> ( 行政、議会、市民の関係は ) 今のかたちと変わらないのか?</p> <p>メンバー) 協働の中身が変わる</p> <p>田村先生) どのように変わるのか説明が必要ではないか。また協働、という言葉はありふれている。</p> <p>今後について</p> <p>田村先生) 何を伝えたいのかを明確にする<br/> 必要であればページ数を少し増やしてもいいのでは。( 6 or 8 ページ )<br/> ( 1 ヶ月後を目途に次回最終協議 )</p> |
| <p>次回会議の日程について</p> | <p>6 月 2 5 日 ( 水 ) 全体会議終了後開催予定</p>   |